第463号
令和3年
4月10日

すまいるたうん

発行元
東京新聞
南千住東口専売店
℡5850-3699
発行責任者
鬼塚　佳代子
℡090-2657-0300

ほっとできる日常の居場所、ユニバーサルステーションへようこそ

「子どもから高齢者まで、だれもが参加できる場所です。」

ユニバーサルステーションは開催日時に予約なく出入りできる場所です。都電町屋二丁目駅降りてすぐの場所にあります。（運営　子ども村：中高生　ホッとステーション）

「血縁関係のない人と家族のような関係、ソーシャルファミリーがあります。」

「おばあちゃんに歌を教えてもらった。」

「子どもに携帯電話の使い方を聞いた。」

不登校の子どもや中高年ボランティアさん、大学生、認知機能に障がいのある方、生きづらさを感じている若者など多世代、多様な方々が、お互い様の関係を作っています。

自由な時間を楽しまれる人、勉強を教えてもらう子ども、囲碁や書道、ボードゲーム、音楽、雑談を楽しむ人など、それぞれが自分のペースで心地よい時間と空間に浸っています。

一昔前の夏の夕暮れ時に路地の縁台に座って、たわいもない会話をしている大人たちに優しく見守られている子どもたちの風景が再現された団欒の場所です。

「みんなで食事をすると楽しい。」

みんなで一緒に食べる手作りの昼食は、皆さんの楽しみの一つです。苦手な野菜が食べられるようになった大人の方もいます。（大人二百円、子ども百円）

「バジルの袋詰めを週二回行っています。」

月曜と木曜の朝十時から一時間程早朝に収穫されたバジルの香りを楽しみながら袋詰めを分担して行っています。活動に参加された方には食事券をお渡ししています。認知機能に障がいのある方もこの活動を楽しみにされ、通って来られています。

「1ミリの成長を喜ぼう」

また、不登校の子どもの支援も行っております。ジグザグしながら成長する子どもを急がず温かく外の世界にいざなっています。

「人と一緒に過ごすことに居心地の良さを感じる」

居場所が学校と家族の中だけ、家族だけの子どもや大人が多くいます。様々な人との出会い、点と点が繋がり、好い加減の距離感を保てる緩い輪がここにはあります。ほっとできる日常の居場所です。

大学生のボランティアもおり、子どもと高齢者を繋ぐ結び目となっています。

新たな居場所にどうぞいらしてください。

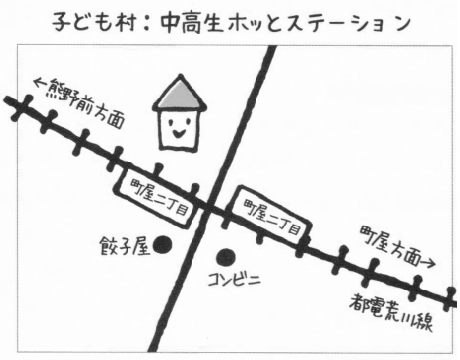
①ユニバーサルステーション
月・水・木：10時～15時（昼食希望の場合、11時半迄に）

※不登校児童のアウトリーチ（遊びの出前）相談により家庭への訪問日は決定

②子育て相談・ボランティア相談（要予約）火：15時30分～18時30分

③中高生ホッとステーション
木：17時～19時30分（要予約）

④子育て交流サロンふぁみ～る（要予約）火・金・土：10時～15時（4月27日（火）より開始）



★ユニバーサルステーション★
（子ども村：中高生　ホッとステーション）
荒川区町屋２丁目２１－２フレスコ町屋２０１
℡（6240）8571
メールアドレス：　arakawa.kodomomura@gmail.com